

企画提案型競技力向上対策事業事例発表

「一貫指導を通じた競技力向上～沖縄レスリング界からオリンピックを目指して～」

沖縄県レスリング協会
強化委員 伊計 孫実

I これまでの概要

1 はじめに

本県レスリング協会は昭和54年に正式に承認され37年の歳月を迎えます。現在のレスリング協会会長、津森義弘会長の働きかけにより設立。上原泰守先生（当時、北部農林高校）が県内初のレスリング部をスタートさせた。その後、読谷高校、南部農林高校、沖縄高校が県高校総体に参加し、第2回レスリング大会が北部農林高校で開催された。その後、海邦国体を機に宮本裕二先生、屋比久保先生、上島一敏先生、嘉手納太先生らが中心となりレスリング協会を盛り上げた。そこからコツコツと苦しい時代を乗り越えながら協会を支えてきた。沖縄ちゅら島総体を挟みここ13年間で協会の努力が実り競技実績は大きく発展した。13年前に競技底辺拡大を図り少年少女の部を設立。ちゅら島総体への強化も含め先生方が小中高の一貫指導をおこなった。ちゅら島総体では県勢初となる学校対抗戦3位、個人戦においても24年ぶりなる全国総体チャンピオンも輩出。その後、全国個人優勝者はもちろんのこと日本代表を何名も輩出。23年度全国選抜大会で学校対抗戦で念願であった全国制覇。のちほど紹介しますが大学生の数名がオリンピックターゲット選手に選ばれており、夢であった沖縄レスリング界からオリンピックの輩出も可能性を広げているところである。

II、一貫指導の構築

1. 小中学生の育成と強化

- ① 選手発掘
- ② クラブチームの支援
- ③ 合宿
- ④ 各大会の運営
- ⑤ 審判員の育成
- ⑥ 県外チームとの交流
- ⑦ 全国大会への参加

2. 高校生の強化

- ① 県内合同練習
- ② 県外強化合宿
- ③ コーチ招聘
- ④ 女子選手の育成と発掘
- ⑤ 国際大会の経験

3. シニア選手の強化と指導者の育成

- ① 進学先の選択
- ② 進学先の監督と連携を取り精神的な部分のサポート
- ③ 県外大会や帰省時における選手の激励
- ④ 指導者の育成

4. 今年度におこなったの強化事業

No.	事業名	期日	場所	説明
1	自衛隊体育学校レスリング班との合同練習	3/4～8	浦添工業高校	沖縄合宿に来た自衛隊体育学校の練習に参加
2	GW 県外強化合宿	5/2～6	東京（国士舘大学） 京都（廣学館高校）	国体選抜メンバーで参加 1,2年生と中学生で参加
3	県内強化合宿 ※コーチ招聘事業	7/21～23	南風原高校	田南部 力（アテネ五輪, 銅） 長谷川恒平（アジア大会, 金） 松本 真也（アジア選手権, 金） 下山田 培（学生チャンピオン）
4	県外強化合宿（夏休）	8/6～14	和歌山（那智勝浦） 京都（廣学館高校）	国体選抜選手, 大学生との合宿 1,2年生と中学生で参加
5	SW 県外強化合宿	9/19～23	神奈川（日体大）	国体選抜メンバーで参加
6	NTS 九州ブロック合宿	12/26～28	宮崎県	全日本コーチによる九州ブロック高校生対象の合宿
7	※DKS 高田道場レスリング教室	2/22	浦添工業高校	レスリング普及活動
8	※ドン・キホーテ杯 ビーチレスリング大会	10/18	美ら SUNビーチ	レスリング普及活動

Ⅲ. 成果と課題とまとめ

1. 成果

地道な一貫指導の努力と協力体制が成果へと繋がっている。その成果として何人か選手の紹介をおこないたい。

大城 一晟（国士舘大学2年） 屋比久翔平（日本体育大学3年）
 宮國 雄太（国士舘大学3年） 徳比嘉一仁（南風原高校2年）
 仲里 優力（北部農林高校1年） 徳比嘉二仁（鏡原中学校3年）
 友寄 汰志（緑風学園小学6年）

このように「東京オリンピックターゲット選手」として選出されており、はじめにも話したが、夢である「沖縄レスリング界からオリンピア」の可能性も出てき始めている。また小学生時代から選手として続けてきた選手の活躍は目覚ましい。高校入学後、高校1年生から全国大会、九州大会で上級生相手に表彰台に上がるほどである。ほかに現在の小学6年生においては、友寄汰志をはじめとする全国大会において入賞を果たすメンバーが揃っており、個人タイトルだけではなく団体での活躍が期待されているところである。

2. 課題

- ① 選手層の薄さ ② 練習環境の少なさ ③ 後任者不足

3. まとめ

まずはじめに、このような企画提案型競技力向上対策事業という選手に効果的な強化が図れるシステムを用意して頂いたことに感謝申し上げます。離島県沖縄というハンデを抱えている状況で強化費の捻出は大きな課題となり負担過重であった。しかし今回のシステムのおかげで、優秀なコーチの招聘、各強豪大学、高校への合宿がスムーズにおこなうことができている。そのお陰で成果が出てきており、今後もより一層のサポートをして頂きたいと坎じています。これまでのサポート有難う御座いました。

さて、強化に関する課題は各競技それぞれ多く抱えているのが現状の中、優秀な指導者不足も大きく影響していると皆様も感じているはずでず。平成30年には、南九州総体がある、その後も10年ほどおきにブロックでの全国総体が回ってくる。その頃には私は退職前であるが、指導者が少ない競技に関しては、恐ろしく感じるところである。なにが言いたいかというとな教員採用試験における選考方法をもう少し時代の流れに合わせて、沖縄県の事情を考慮した方法に検討して頂きたい。このままでは全国総体が回ってくる頃には運営をおこなうスタッフが不在な状況が生まれる競技も出てくるだろう。少ない中でも情熱をかけ指導していくのはもちろんであるが、指導者の充実でより良い強化が成果に反映させることができると確信している。沖縄県のスポーツ界の発展に適した選考方法の見直しを検討して頂くことを強くお願いしたい。

この企画提案型競技力向上対策事業というシステムの企画に感謝を申し上げると共に、今後の沖縄のスポーツ界の発展を願ひ、私の発表とさせていただきます。